



高校生活最終学期がスタートします

卒業まであと5カ月、高校生活のまとめの学期を迎え、受験勉強に忙しい皆さんに考えてほしいことがあります。それは、これまでの高校生活は自分にとってどうだったのか、そして残された期間をどう過ごせばよいのかということです。もちろん勉強のことも含まれますが、高校生としてあるべき姿、振る舞うべき態度を再度考えてほしいと思います。ここまで皆さんは、なにごとにおいても真摯に取り組んできてくれました。「やる時はやる」という気概を持って、ものごとに当たってきたのではないのでしょうか。だからこそ、これからの5か月をどう過ごすべきか、下級生に対して先輩としてどのような後ろ姿を見せていくのかということを意識してほしいと思います。

例えば目に見えることでいえば、遅刻や授業に臨む姿勢についてでしょうか。一人ひとりが残り少ない西高での生活を大切に思えば改善できるはずです。服装のことも、常に下級生に模範として示すことができる着こなしであってほしいと思います。

これからの時期、学校推薦型入試などで進路が決まる生徒が少しずつ増えてきます。このような中、進路が決定した生徒は教室でどのように過ごすべきか考えましょう。とるべき行動は自ずと決まってくるはずです。西高という集団の一員として、誇りを持って卒業の日まで過ごしてもらいたいです。卒業後も、西高の出身であることを胸を張って言うためには、今をきちんと過ごしていくことに尽きます。卒業まであと150日余り。充実した日々を送りましょう。また、これからは1月の大学入学共通テストを目標に学校生活を送る人が多くなります。進路実現に向けてこれからの時間を大切にしてほしいと思います。また、山梨で生活する時間もあとわずかという人もいることでしょうか。家族と過ごす時間も大切にしてもらいたいと思います。

8/30(金) 16:45 頃、雨上がりに大きい虹が見えました。西高北館校舎より撮影→



【10月行事予定】

A：A週 B：B週 行：学校行事 家：家庭学習日 を表します

日	曜	A/B	予 定
1	火	B	安全点検、自転車ステッカー・ヘルメット点検週間
2	水	B	
3	木	B	芸術鑑賞会
4	金	B	第2回ベネ駿記述模試（3年）
5	土		第2回ベネ駿記述模試（3年）
6	日		
7	月	A	きずなの日、LHR：ウォーキング 大会事前説明会
8	火	A	
9	水	行	第28回健康の森ウォーキング大会
10	木	A	
11	金	A	第3回全統共通テスト模試（3年希望者）
12	土		第3回全統共通テスト模試（3年希望者）
13	日		
14	月		スポーツの日
15	火	B	

日	曜	A/B	予 定
16	水	B	献血（3年）
17	木	B	
18	金	B	第3回全統記述模試（3年）、PTA理事会
19	土		第3回全統記述模試（3年）
20	日		
21	月	A	きずなの日、あいさつ運動（～10/25）
22	火	A	
23	水	A	I B最終試験（3年）
24	木	A	I B最終試験（3年）
25	金	A	第3回ベネ駿共通テスト模試（3年）、I B最終試験（3年）
26	土		第3回ベネ駿共通テスト模試（3年）
27	日		
28	月	B	生徒総会、第2回生活実態調査
29	火	B	
30	水	B	I B最終試験（3年）
31	木	B	

保護者のみなさまへ

いよいよ9月25日から大学入学共通テストの出願が始まりました。本校でも例年どおり、10月初旬の吉日を選んで、学校一括でお願いいたします。10月～11月は受験生にとって、最もつらい時期となります。特に次々と返却される模擬試験の結果に一喜一憂しながら、日々の学習を継続していかなければなりません。新課程で臨む大学入学共通テストであり、教科『情報Ⅰ』も新たに受験教科に加わるなど、生徒を取り巻く状況の困難さは想像に余りあります。こうした中で、生徒たちは自己との、そして全国のライバルとの戦いに日々奮闘しています。生徒たちの話に耳を傾けると共に、ぜひ励ましてあげていただきたいと思います。生徒にとっては身近にいるご家族の理解は、なにより嬉しいはずですので、これからもよろしくお願い申し上げます。

◎1組担任の小林康仁先生からの寄稿を紹介します。

「『たいせつなもの』は、『ほしいもの』よりも先に来た」

ある作品から引用しています。ん～～深いっ。「そこにはない何か」を求め、様々な苦難を乗り越えていくわけですが、手に入れる前に、もしくは手に入れたとしても、その道中に落ちていた物事にこそ価値があるという一節です（英語でも、Serendipityという単語で表されています）。人間は欲深いもの。ほしいものを手に入れたと途端に、それ以前ほどの価値を見出せなくなり、「次」に目が移っていくこともままあるわけです。では、そこに残ったものは？ほしいものを手に入れるまでの「道すがら」で得た経験…効率的な手順の進め方や、周りの人との協力、失敗からの学び、胸が熱くなるような一体感、文字通り一生残るような一生懸命な瞬間などなど…実は「ほしいもの」自体が「たいせつなもの」とは限らないわけです。みなさんには、この先「達成したいもの」が出てきたとき、表題の言葉を、そこにたどり着くまでの道中で振り返ったり、たとえ失敗してもそうやって意義を見つけたりして、「たいせつなもの」を見つけてほしいと思います。そこに人生の彩りが生まれる、と小林は思っています。

…まあ、これ、体育祭で5組に勝てなかった負け惜しみで書いているんですけどね（爆笑）。「ほしいもの＝体育祭の1位」と読み換えて、読み直してみてください。でも、「たいせつなもの」は「たいせつなもの」です。では。

◎続いて、2組副担任の里吉優太郎先生からの寄稿を紹介します。

今年度も早くも半年が経とうとしており、私もようやく西高での生活にも慣れてきたところですが、時間が進む早さを感じます。3年生の皆さんは受験シーズンがもうすぐそこですね。日々頑張っている皆さんですが、これから不安やプレッシャーに負けそうになることもあるのではないのでしょうか。私自身もそうでしたが大変な時期だと思います。そんな時期を少しでも乗り越えていけるように、私なりの秘策を書こうと思います。

それはズバリ、逆境に負けそうなときに「面白い話にはピンチが付きもの」と自分に言い聞かせることです。これはある人が私にしてくれた話なのですが、漫画でもドラマでもゲームでも面白いといわれる物語には必ずと言っていいほど試練や逆境、ライバルの存在などに苦しめられる場面が出てきます。そこで一旦起こる感情の揺れが、最後の達成感や喜びをより強いものにし、面白かったと感じさせるそうです。つまり試練や逆境による苦しみは、物語を面白くしてくれる重要な要素なのです。言われてみれば当たり前のことかもしれませんが、これを自分のことに置き換えてみるとどうでしょう？自分の物語を面白くしてくれるから、逆境も必要だなという思考になってしまうのです。この考え方が誰にでも当てはまるものではないかもしれませんが、私のように頑張ろうとするエネルギーが出てくる人もいないのではないのでしょうか。受験も（人生も）全て順調に進むことが理想ですが、そうでないことがやってきた時に、少しでも前向きになれる術を持っておくことをお勧めします。